

の夫私工

子どもに学びを委ねるための「授業における焦点化」と学び続ける教員集団のための「OJT研修」

前瀬戸内市立邑久小学校 主幹教諭
現瀬戸内市教育委員会総務学務課

総括主幹 森阪 信樹



1 はじめに

この春の異動により、瀬戸内市教育委員会で勤務している。これまで以上に、多くの先生方の授業を拝見する機会が増えた。各学校で授業づくりにおいて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、様々な工夫を行っていることを改めて知り、日々勉強する機会をいただいている。

ここでは、授業づくりにおいて大切だと感じている「授業における焦点化」と前任校（瀬戸内市立邑久小学校）で行った「OJT研修」を紹介したい。

2 授業における焦点化

授業の中で、子どもたちが主体的に学ぶには、「これを考える」「こ

れができる」とよい」「これを使えばよい」「今、これについて話し合っている」「これが大事だ」ということが、子ども自身の中で明

授業を構成する4要素の焦点化の手立て

学習内容を焦点化する	学習活動を焦点化する
・ 学びの意識を継続させる単元を貫く課題設定と学びの内容の自覚化 ・ 導入工夫による自然な思考の流れからの「めあて」設定 ・ 目標達成・ゴール姿のイメージ共有	・ 活動の目的と学びの現在地が確認できる学習の流れの提示 ・ 学び方の選択肢から活動方法を選択できる自己決定の場の設定
子どもの考え・発言を焦点化する	板書を焦点化する
・ 考えを伝え合う多様な場の設定 ・ 聞き手反応での発言つなぎ ・ 指導者の反応変化 ・ 協働的に形成された考えの明確化	・ 情報の精査 ・ 文字の色・大きさ・囲みによる意味付け ・ 思考を深める視覚情報の提示 ・ 図・マップによる学びの過程の構造化

子どもに学びを委ねるための「授業における焦点化」

確になっておく必要がある。言わば、指導者は学びのファシリテーターとして、複数の情報からスポットライトが当たっている状況を様々な手立てにより作り出していくことが大切である。授業を構成している【学習内容】【学習活動】【子どもの考え・発言】【板書】について焦点化する手立てを紹介する。

【学習内容の焦点化】

・ 単元を貫く課題を設定する。

↓ 学びの意識の継続を図り、家庭学習にもつなげる。

・ 子どもにとって分からないことはつきりとしていないことを整理し、自覚できるようにする。

・ 子どもの興味を引く問題提示をしたり、必要に応じて前時の学習内容を振り返ったりすることで、導入を工夫し、自然な思考の流れで「めあて」につなげる。

・ 子どもとともに目標達成・ゴールの姿をイメージして共有した明確な「めあて」を設定し、内容・活動に直結させる。

【学習活動の焦点化】

・ 学習の流れを示す。（授業中に今どこにいるのか、この活動がその後どうつながっていくのかを

子ども自身が必要な時に確認できるようにする。）

・ 学び方の選択肢を示し、子ども自らが活動方法を選択できる自己決定の場を用意する。（ワークシートや1人1台端末による思考ツールの活用等。）

【子どもの考え・発言の焦点化】

・ 子どもが立場を決め（同意・反論・迷い・傾聴）を決め、考えを自由に伝え合える多様な場を用意する（ペア・グループ・全体）。

・ 聞き手の子どものつぶやきや表情による反応で発言をつないでいく。

↓ 子ども一人の発言だけで終結させない。

・ 聞き手の教師の反応を変える。
↓ 子どもの考えが形成されるまで、納得せず、聞き続ける。突っ込んで問う。切り返す。

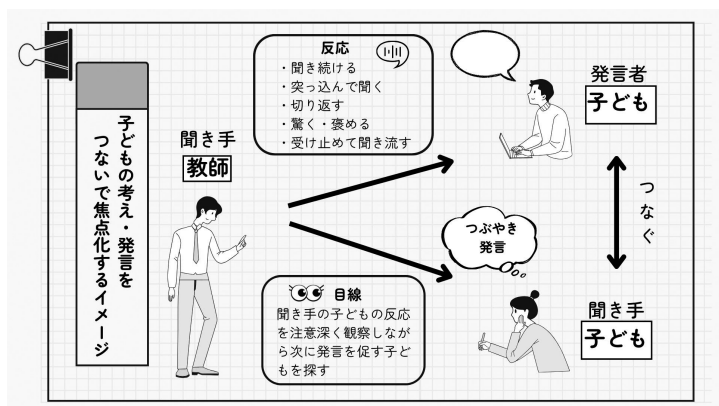
他の子どもにも反応を促す。受け止めてあえて聞き流す。驚く、褒める。子ども同士の交流を促すように立ち位置を変化させる。（黒板中央から離れる等。）

・ 協働的に形成された子どもの考えを板書に目立つようにしつ

りと位置付ける。

【板書の焦点化】

- ・情報を精査し、書く量を絞る。
↓限られた情報から多様に考えを深められるようにする。
- ・文字の色や大きさを変えたり、囲んだりする。(丸や四角・吹き出し等。)
- ・視覚情報から考えを深める場面では、絵や写真・短冊を効果的に使う。
- ・図・マップで学びの過程を構造化する。



↓まとめや振り返り活動に活用できるように、子どもが獲得した考えや思考の過程を順を追って視覚的に捉えられるようにする。

3 OJT研修

校内研究を進めていく上で、共通理解が必要となったことや共有したいことをテーマにして、定期的にOJT研修を行った。研修の中でも、模擬授業をしたり、板書について協議したりする実践的な研修が有効であった。その中の一つを紹介する。

【研修名】板書展覧会

「板書でトーク！」

【研修のねらい】互いの授業の板書を紹介し合いながら、授業の流れや板書方法について交流し、子どもの思考を整理し深める板書のスキルアップを目指す。

【研修方法】

- ①参加者は、研修日に行った授業の板書をそのまま残しておく。(板書を残しておくことが難しい場合は、板書を撮影しておく。)
- ②担当学年・経験年数が違う4人

程度のグループを作り、メンバーが互いの教室に移動しながら各教室の板書を見て、授業の流れと板書の工夫について交流する。(板書が残されていない場合は、板書の画像を提示して交流する。)

- ③時間があれば、他のグループのメンバーの板書を見て意見を交流する。
- ④各グループで板書の工夫点をまとめ、共有する。

【研修の成果】

各教室に移動しながら研修を行ったことで、その教室で学びに向かった子どもたちと指導者の熱量を感じながら板書について交流することができた。板書に学びの跡

が示され、同時に学習揭示もあるため、授業の流れがイメージしやすく、具体的な助言をしている場面が見られた。また、それぞれの教室の板書を研修材料として用いることで、多くの事例から、子どもの思考を整理し深める有効な板書方法について共有することができた。

4 おわりに

休み時間に小学校一年生の子どもと遊んでいた時のことである。子どもから少し離れたところに置いてある水筒に蜂がとまっていた。自分の大切な水筒に蜂がとまったことを嫌がるだろうなと思っている、思いの外、にこにこ嬉しそうに蜂を眺めていた。そして、「先生、私の水筒、きつと蜂が気に入って、とまったんだね。だって私の水筒、かわいい花柄だもん」と言った。子どもの見ている世界観と感受性に、はっとさせられる出来事だった。

授業においても当然、学習内容の捉え方は、子どもと教師で違っている。学びの進度も一人一人違っている。どこまで理解が進み、考えを深めているか。また、どのように捉え違い、つまづいているのかを把握しながら授業を行わなければならない。時に指導者の思考から離れることも必要である。学びの主体である子ども一人一人の思考に全身で寄り添い、個別最適な学びを実現することの大切さを感じている。

今後様々な面から学校を支援し、岡山県の教育の充実のために尽力していきたい。

私の工夫

道徳教育を
日々の指導に生かす
～指導計画の充実を通じて～

岡山市立竜操中学校

教諭 荒島 永作



1 はじめに

4月の職員会議に向けて、本校独自の年間指導計画や別葉を昨年度のものを参考に作成する過程で、多くの気づきがあった。当該資料は、関連している学校行事や教科についてまとめられていることはもちろん、その時間のねらいや重視する内容項目までまとめられていて、私はとても感動した。しかし、昨年度の自分はどうかだったかという、4月に1回見たきりで全く活用していなかった。こんなに考えられた資料があるのにもかかわらず、活用しないのはもった

いないと感じた。これを活用することで、生徒が道徳的価値について、自分との関わりで考えたり、学んだことを日々の学校生活に生かしたりすることができきつかけになるのではないかと考えた。また、こうした指導体制を整えることにこそ大きな価値があり、我が校が掲げる「自主的に考え、議論する道徳」の授業の充実にもつながると考えた。

また、本校の生徒は素直で温かい心を持ち、道徳科の授業でも自ら学ぼうとする意識が感じられる。しかし、道徳科が授業のみで完結してしまっていることや、学んだ

ことの価値づけ、日常との関連付けが十分でないことから、学んだことを生かし自主的に実践することにつながるのではない場合が多い。本校は学区内に狭い道も多く、地域からの交通に関する苦情や交通事故も多いことから、「地域で愛される学校」になるために、「公の意識」を高めて行動する生徒を育成していこうという校長からの方針が出された。これを実現していくために、重要な道徳科の内容項目として、「遵法精神、公德心」がある。この項目の授業実践を並行して研究しながら、「公の意識」を高められるように日々の交通指導・生活指導につなげられるように研究を行った。

1 年間指導計画や別葉を 学年会などで見やすい形で その都度提示する

本校では、月1回学年会を開い

ている。こうした学年会などの時間で、その月や学期で重視すべき内容項目を確認した。その際に使

日付・行事	扱う教材	内容項目（伝えたいメッセージ）
地区大会 6月4日(火)	2 1 地下鉄で	思いやり、感謝 (大会スタート 最後を迎える先輩たちのために何ができる?)
地区大会 6月11(火)	3 3 言葉の向こうに	相互理解、寛容 (大会で外に出ることも多いが SNS 利用の仕方に注意)
定期考査発表 6月18日(火)	5 いつわりのバイオリン	より良く生きる喜び (テスト! 自分の弱さに負けない)
個人懇談 6月25日(火)	1 1 木箱の中の鉛筆たち	向上心、個性の伸長 (もう一踏ん張り! がんばれ!)
期末考査後 7月5日(火)	7 半分おとな 半分こども	礼儀 (1学期を振り返り、いい終業式にしよう。式では成長した姿を!)
次週終業式 7月12日(火)	1 4 島耕作 ある朝の出来事	遵法精神、公德心 (夏休みの過ごし方につなげたい)

用したのが、右記のような指導計画である。その月にある学校行事や生徒の実情に合わせて、重視する内容項目を決め、教材も柔軟に対応させていった。また、生徒にどのような語り口でその価値を語るのか、という言葉もわかりやすく表現することによって、短学活などでの声掛けにも生かしやすいように工夫した。

2 掲示物や語りで意識付けを図る

「公の意識」を高めるために、生徒が普段から目にする場所に掲示物などを作った。学校行事やその時の生徒の課題に合わせて、内容を変えることで、生徒の活動が「公の意識」の観点からどうだったのかを振り返ることができ、充実した内容の掲示物になった。また、始業式などの校長の話をはじめとして、生徒指導担当の話、学

年集会や各学級の短学活での話など、あらゆる場面で「公の意識」を語る場を設定し、生徒が規範意識を高められるように工夫した。



校内で作成した掲示物

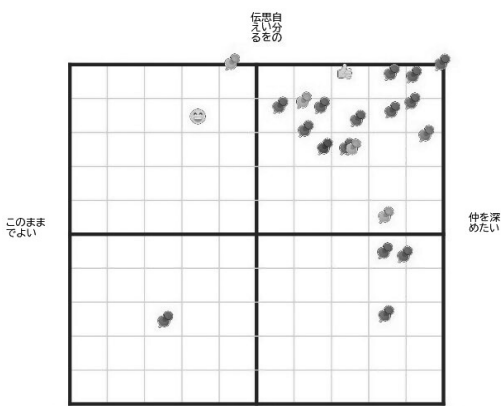
3 授業研究で更に学びを深める

本校で行っている「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」と連携し、1年生で「人に迷惑をかけなければよいのか」2年生で「ネパールのビール」の授業研究を行



授業の様子

った。全教職員が参加し、研究協議では、岡山市教育委員会の先生方にもご指導をいただき、実りの多い会になった。また、ICT



ICTを活用した授業

4 終わりに

を活用した授業研究も進めていて、本年度導入されたミライシード・オクリンクプラスも利用しながら、授業を行った。

本年度も、さまざまな視点で道徳教育に関する実践ができた。「道徳教育は授業だけではない。学校の教育活動全体で行うものだ。」ということは理念としてはわかるが、どうつなげるのかということが改めて考えられたように思う。

冒頭でも述べたように、年間指導計画や別葉をどう有効活用していくかというところから、指導体制を整える研究が始まった。「道徳科の授業の充実」に向いていた先生方の視点を、道徳教育の充実に向けた体制整備を行うことで、学校の教育活動全体に少しでも広げられたのではないかと思う。